

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「自分を高めつつ、仲間とかかわり、互いに認め合える子」  
 知：課題解決に向け、主体的に学習する子を育てます。  
 徳：自分も友だちも大切にして、感謝する気持ちをもてる子を育てます。  
 体：自分や他者の生命を大切にし、自らの健やかな体をつくる子を育てます。  
 公：地域を愛し、小さなことでも社会のためにと考えて行動する子を育てます。  
 開：歴史や伝統がある二俣川や横浜、日本のことを尊重しながら、国際的視野をもてる子を育てます。

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉  
 〈言語能力〉  
 〈問題発見・解決能力〉

#### 具体化した資質・能力

他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 自己肯定感  
 相手の思いを受け止めて聞く力 事実等を解釈し自分の考えを形成する力  
 問題を認識する力 解決手段を定める能力

#### 中期取組目標

「笑顔いっぱい 友達いっぱい」の学校にします。  
 ○安心して学べる環境をつくり、自己有用感をもてるようにします。  
 ○豊かな心で関わり、考え議論する子どもを育てます。  
 ○主体的・対話的で深い学びになるように、誰もが「わかる」「できる」が実感できる授業をつくります。  
 ○学びの連続性を意識した自分づくり教育を進めます。  
 ○保護者や地域学校協働本部と連携して、パートナーとして子どもの育成にあたります。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 個に応じた指導	授業改善：基礎基本の定着を図り、分かる楽しい授業作りを進め、どの児童も楽しんで参加できる主体的・対話的な授業作りを実践する。 個に応じた指導：個に応じた問題解決の支援を行う。
担当	学年推進委員会・学習評価

#### 学力向上に関わる本校の状況

学力は学年によって異なるが、多くの学年で市平均を上回り、概ね学習を理解している。全体的に学習意識が平均よりも下回る学年が多く、学んだことを日常場面の問題解決に活用することに課題が見受けられる。このことから、語彙を増やすなど基礎基本の定着をはかりつつ、身近な生活と結び付けた学習を大切に、自分なりに考え、解決方法を工夫できる授業改善を進めていきたい。  
 学年によって違いが大きいのが、学習意識の高い学年は学力も伸びている。生活意識の「勉強がすきか。」という項目や「○○の勉強をすれば、自分自身のふだんの生活や社会に出て役立つと思いますか。」という項目では、市平均を下回る学年が多く、全体的に学習が受身で目的意識を持って学習に取り組んでいることがうかがえる。また、生活意識は学年によって異なり、生活意識と学習意欲は大きく関連していることが分かる。主体的に学習することができるように、学習課題を自分ごととしてとらえ、また、学びを通して自分のよさや友達のよさに気付いていくことができるような授業を展開する必要がある。

#### 今年度の目標

主体的・対話的な授業を目指す  
 個に応じた指導を充実させる

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

授業改善  
 特に主体的・対話的な授業を目指す  
 ・学年での授業研究  
 ・魅力のある導入の工夫  
 ・学習計画やめあめは子どもとともに立てる  
 ・ペアやグループでの活動を取り入れる  
 ・iPadの活用(系統立てる)

個に応じた指導  
 ・段階的なプリント作成  
 ・少人数指導

上半期

下半期

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①行事等では、個々のめあてを決め、掲示することで、児童が自分の役割を意識して活動できるようにし、それに応じた具体的な手立てを講じていく。 ②道徳の時間に、日常の生活の経験を振り返ったり、学習の総合化を図ったりすることで、友達と協力して互いの良さを認め合う機会を増やす。
担当	道徳部

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態  
 本校の児童は、とても素直な子が多く、何事にも一生懸命取り組むことができる。なかよし活動では、高学年が低学年の面倒をよく見たり、低学年が高学年の言うことをしっかり聞いたりする態度が育っている。豊かな心を育むためにスタートした「二小音楽会」では、学級や学年で音楽を作り上げる楽しさや達成感を感じたり、他学年の合唱や演奏を聴いて互いの努力を認め合い、自他の良さをみつける喜びをもったりすることができるようになってきた。  
 これまでの学習状況調査などのアンケートを見ると、個人差はみられるが、自己肯定感が低い傾向がある。クラスや学年で互いを認め合える時間を設けたり、学年を超えた交流を行ったりし、自己肯定感を高めるようにしてきた。また、規範意識が育っていない児童がおり、ルールを守る大切さについての理解が低いことが分かった。ルール＆マナーブックを活用したり、道徳の授業を通してきまりを守る大切さについて指導をおこなってきた。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
 ・道徳の時間の指導を通して、自己を深く見詰め、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるような授業づくり。  
 ・生活目標の学級取組を具体的に話し合い、実現していくことで、生活を向上させていく意識に加えて、他者を思いやる気持ちや人権意識を育んできた。  
 ・全校遠足や運動会でのなかよし活動だけでなく、なかよし集会を定期的(月に一回)に行ったり、レクタイムを活用したなかよし遊びを行ったりすることで、学級集団だけではなく異学年同士のつながりを築き、他者理解ができるようになってきた。

#### 今年度の目標

問題を認識する力を育みながら、他者を理解する態度や自己を理解する姿勢を身に付けさせる。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ・道徳教育の要となる「道徳の時間」の指導を通して、自己を深く見詰め、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるようにする。また、導入の工夫や振り返りを充実させることで、自分事としてとらえることができるようにする。  
 ・道徳部による研修を行い、道徳の時間の授業の展開の仕方や評価の方法について、校内で共通理解を深める。  
 ・運動会でのなかよし活動だけでなく、なかよし集会を定期的(月に一回)に行ったり、レクタイムを活用したなかよし遊びを行ったりすることで、学級集団だけではなく異学年同士のつながりを築くようにする。

下半期

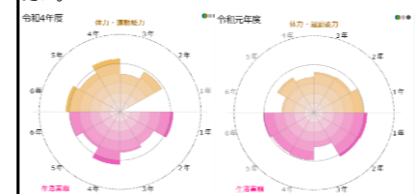
・教科化に伴って再編した年間計画を見直ししながら、授業を進める。  
 ・全校遠足や音楽会などの行事を通して、異学年同士のつながりを深め、他者理解ができるようにする。

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①体育の授業・運動委員会主催の体力アップ月間等を通して、日常的に体力づくりに取り組めるような啓発を行う。 ②保健の授業・学校保健委員会の取組、食育を通して、健康的な生活への意識づけを行う。
担当	体育部・食育部

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態  
 本校の体力は、学年による偏りはあるものの、全体的に見ると市平均に近い数値となっている。令和元年度と比べると、徐々に運動能力の向上していることが分かる。これまでの取組の成果だと感じている。一方で、種目別に見ると、立ち幅跳びと反復横跳びに関しては、以前から変わらず課題であることが分かった。スポーツクラブ等に所属する児童は市平均、全国平均を上回っているが、週に3日以上運動に取り組んでいる児童や、運動が楽しいと思っている児童は市平均並かそれ以下程度となっている。そのため、今年度も運動の日常化につながり、自主的に楽しみながら体を動かす児童が増えるような取り組みを考えていきたい。



(2)これまでの学校の取組状況  
 ①運動委員会主催の体力づくり月間を開催した。昨年度前期には、苦手な児童でも楽しめるようにルールを工夫したドッジボール大会、後期には、得点の付け方を工夫した長縄大会を企画運営した。特に後期の長縄大会では、冬場にもかかわらず各クラスで休み時間等を活用し意欲的に練習に取り組む姿が見られた。期間終了後も継続して長縄で遊ぶ児童もいて、運動の日常化へつなげるための取組として効果的であった。  
 ②学校保健委員会では手洗い、けがの予防など、その時に応じたテーマを取り上げ、健康・安全に過こ

#### 今年度の目標

○健康的な生活が身につくように自己の生活の問題を認識し、解決手段を定めて実行できるようにする。  
 ○運動についての課題などを他者と伝え合い、問題を認識し、課題解決につながる場を選んで活動できる授業づくりを行う。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 【授業づくり】  
 ・情報機器を活用し、自身や他者の動きを見て動きの良いところや課題を伝え合う活動を多く取り入れる。  
 ・予想される課題の解決に適した運動の場を用意し、子どもたちが自身の課題に応じて場を選んで活動できるような授業づくりを行う。  
 ・問題の認識と課題解決の手助けとなるような学習カードを作成する。  
 【体力アップ週間】  
 ・体力アップ週間に充実させ、運動に継続的に取り組もうとするきっかけを作る。  
 【保健に関する取組】  
 ・学校保健委員会では、今年度定めたテーマにあわせた取組を自己の課題の解決につながるように企画運営していく。  
 ・健康的な生活のために自己の生活を見直す機会を学校全体で設ける。

下半期

【授業づくり】※前期から引き続き継続して実施していく。  
 ・情報機器を活用し、自身や他者の動きを見て動きの良いところや課題を伝え合う活動を多く取り入れる。  
 ・予想される課題の解決に適した運動の場を用意し、子どもたちが自身の課題に応じて場を選んで活動できるような授業づくりを行う。  
 ・問題の認識と課題解決の手助けとなるような学習カードを作成する。  
 【体力アップ週間】  
 ・前期の体力アップ週間の振り返りを行い、内容をより充実させ取組を見直し実行する。  
 【保健に関する取組】  
 ・前期の振り返りを行うとともに、年間を通して取組による成果を児童が実感できるように児童自身が振り返る機会を設ける。